

〔畜産農家の声〕

影山 敏行さん

美作県民局畜産第1班

○はじめに

那岐山のふもとに町並みが広がる津山市勝北地域。「風の吹く町」として知られ、瞬間風速 50m に達する「広戸風」は町のシンボルにもなっています。

今回は、この勝北地域で酪農経営を営む影山牧場の影山敏行（としゆき）さん（28）をご紹介します。

○結婚、そして就農

影山敏行さん（旧姓 佐伯さん）は、同市東松原町のサラリーマン家庭で育ち、高校卒業後は地元の会社に勤務しておられました。

奥様の真美（まみ）さんとは会社員時代に友人の紹介で知り合い、以来順調に愛を育んでこられました。そして3年前の平成19年6月にゴールイン、敏行さんは影山家の一員となりました。

結婚するまでは、酪農とは全く無縁の生活でしたが、生来動物が好きということもあって、結婚を機に真美さんのお父さんである羊二さんが営んでいる酪農業に就農されました。

○日々之勉強

就農して3年。今の気持ちを聞いてみました。

「毎日の搾乳や9haの粗飼料生産は大変ですが、酪農の生活リズムにも徐々に慣れ、お義父さんから大事な仕事も任されるようになりました。」

「地域の酪農組合の視察研修や、農業後継者協議会の勉強会等で新たな知識に出会うことが出来ます。有用な情報はお義父さんと相談しながら積極的に経営に取り入れています。自分で考えて実行し、結果が目に見えたときは、本当にやりがいを感じます。日々勉強ですが楽しいですよ。」

いま、特に力を入れて取り組んでいることは？

「乾乳牛の管理に特に気をつけています。この時期の管理如何で、産後の乳量やコンディションがずいぶん違ってきます。だから、毎日入念に牛のチェックをしています。」

○将来につながる酪農経営をめざして

敏行さんに将来の夢を聞いてみました。

「就農して日が浅いので将来の夢はあまり描けてないけど、強いて言えば、自分の息子が大きくなったとき、『お父さんの酪農を継ぎたい』とってくれるような経営をしたいですね。」

「そのためにも、多くの知識と技術を持つお義父さんからすべてを吸収していきたいと思っています。」

もうしっかり将来を見据えておられるようです。

（美作県民局畜産班）

長女みゆちゃん（2歳）、長男湧人（ゆうと）くん（3ヶ月）の2人のパパである敏行さん。学生時代はサッカーや軟式野球をしていたスポーツマンですが、「今は子育てと仕事に専念」しており、スポーツは“お預け”だとか。「子供がもう少し大きくなったら、一緒にキャッチボールしたいですね。」

子煩悩な敏行パパ。今後も益々のご活躍をお祈りいたします。

経営の概要

- (1) 経産牛 36頭、育成牛 12頭、
和牛繁殖雌牛 2頭
ETによる子牛生産に積極的に取り組む。
ET : AI = 8 : 2
- (2) 経営面積
水稻 70a、飼料作物 9ha(借地含む)
- (3) 労働力
2名